九州大学男女共同参画推進室ニューズレター

SANKAKU
サンカク

2025
第29号
発行：令和7年12月

九州大学男女共同参画推進室　〒819-0395 福岡市西区元岡 744　TEL 092-802-2034　E-Mail office@danjyo.kyushu-u.ac.jp　URL https://danjyo.kyushu-u.ac.jp

本紙は「ダイバーシティ・ニュース」と「ニューズレター SANKAKU」を統合して令和3年度より創刊されました。

Contents

- 特集：巻頭インタビュー「九州大学で活躍する女性たち」
- 仕事と家庭の両立・育児体験記「ワクワク・ライフ・バランス」
- オープンキャンパス　パネル展
- 男女共同参画推進室 イベントカレンダー
- イベント開催報告
- ライフイベントに伴う研究継続支援
- 男女共同参画推進室　蔵書紹介
- ベビーシッター派遣事業割引券について
- 男女共同参画推進室 専任教職員紹介
- 編集後記

特集 巻頭インタビュー　九州大学で活躍する女性たち

大学院総合理工学研究院
萩島（はぎしま） 理（あや） 教授

＼略歴／

九州大学工学部建築学科を卒業後、九州大学総合理工学研究科修士課程を修了。東京大学施設部建築課文部技官として2年間勤務の後、助手として九州大学総合理工研究科に着任。専門分野は都市気候学、建築環境工学など。近年は途上国のサステナブルな住環境、建築の脱炭素・気候変動適応などに関する研究に取り組んでいる。2020年度から副理事、2024年度から、研究戦略企画、D・E・I担当副学長。

人々が快適に暮らせる環境を追究する

私の研究テーマは、ヒートアイランド現象や都市の緑から始まり、現在ではパッシブ建築デザインやアフォーダブル・ハウジングへと、移り変わってきました。常に変化し続けていますが、一貫して大切にしているのは、流行よりも自分や学生が真に関心を持つ課題に取り組むことです。総合理工学府の学生の約6割は留学生で、多くが母国の課題解決を志して九州大学に来ています。私は彼らとともに、地域固有の課題に研究を通じて取り組んでいます。近年では、モンゴルのゲルの居住環境改善や、インドネシアにおける都市スラムの住環境改善などを扱っています。

恩師との出会いが決めた研究者への道

学部生時代、周囲にはデザインやアート志向の友人が多い中、私は観測や数値解析で明確な答えが導き出せる環境系の分野に強く惹かれ、機械工学との学際専攻の修士課程に進みました。指導教員の片山教授は、優れた研究者であると同時に、質素で誠実、温かな人柄を持つ方でした。その研究姿勢と人間性に深く感銘を受けました。修士課程修了後は国家公務員として2年間、建築の計画や積算、現場管理の業務に携わり、一級建築士も取得しましたが、そのタイミングで片山先生から助手の話をいただき、九州大学に戻る決断をしました。着任後は研究と教育に打ち込み、研究者としての歩みを始めました。その5年後に論文博士を取得しています。

自由な発想が育つ研究環境を目指して

研究の醍醐味は、自らのアイデアと着眼点から仮説を立て、探索し、その成果を自由に発信できることだと感じています。キャリア初期は建築分野の慣行に従い日本語で論文を書いていましたが、博士取得後、英語での発信に挑戦し始めました。他分野では当たり前でも、当時の日本の建築学会では主流でない選択でした。英語での発信を通じて世界中の研究者とつながり、視野が広がったことで、異分野との共同研究など新たな研究の道が開けました。

海外の研究室では、子連れで研究する姿や、在学中に出産を経験する大学院生も珍しくありません。私も学生が自由で風通しのよい環境で研究できるよう心がけています。

ちがいを力に、共に前へ

自治体の審議会や学内の教育プログラム運営など、最初は巻き込まれる形で始めた仕事も、自分のアイデアで変化を起こし、周囲と協力して前進させていく経験が、振り返れば自信につながりました。皆さんも、学業や研究以外の様々な経験に挑戦してみてください。予想もしなかった人や価値観に触れることで、世界が確実に広がります。一つのコミュニティでうまくいかなくても、別の居場所があれば新しい道が開けます。キャリアとライフイベントの両立に悩む場合もあるでしょう。私自身はその経験がありませんが、周囲を見ていて感じるのは、多様な経験が必ず力になるということです。尖った個性を持つ人も、調整役を担う人も、それぞれの強みを持ち寄ることで組織は豊かになります。それぞれの道があり、それぞれの歩み方があります。自分らしさを大切に、共に頑張っていきましょう。

仕事と家庭の両立・育児体験記

ワクワク・ライフ・バランス

「子を育て、子に育てられる」

病院事務部　患者サービス課　主任　小峠 雅裕

2023年11月末に第一子が生まれ、2023年12月1日から2024年12月31日までの1年1ヶ月間育休を取得しました。また、妻が先に職場復帰したため後半の6ヶ月間は単独で育休を取得していました。

月齢に応じた個々のお仕事（ミルク・離乳食、あやし、看病、排泄処理等々）については割愛しますが、育児において何より大変なのは「毎日継続する」ということです。

成長に伴いどんどん活発になり目が離せなくなる子を尻目に日々の家事をするのですが、なかなかに気が張ります。また、我が子とはいえ、日中ずっと二人っきりというのは存外に堪えてくるもので、妻がバトンタッチしてくれる週末が来るたびにホッとしていたものです（ですのでこれを読んで下さっている男性職員の方は是非まとまった時間（半日～終日単位）で奥様と交代してください笑）。

と、大変なことを色々と書いていますが、振り返ってみると、子と深く関わることができた育休期間は何事にも代え難い貴重な時間でした。日々、子を育てていたつもりですが、育児を通じて様々なことを経験・学習し、精神面を含めて、私も子によって育ててもらっていたように思えます。

親が子に密接に関わることができる期間というものは、意外と限られたものであると思いますので、みなさまにも子との貴重なひとときを過ごしていただければと思っております。

オープンキャンパス　パネル展

＼ オープンキャンパスに出展しました ／

2025年8月2日（土）、本学伊都キャンパスで開催されたオープンキャンパスにおいて、男女共同参画推進室は「その先に、なりたい私がいる―ロールモデルと支援制度で描く“私の未来”―」というテーマでパネル展を実施いたしました。会場は本学中央図書館建物2階の男女共同参画推進室多目的スペースにて行いました。

当日は猛暑のなか、高校生55名、保護者35名、計90名の皆さまにご来場いただきました。パネル展では、「九大で活躍する研究者」「九大で活躍する女子学生」「九大で活躍する卒業生」「九大のさまざまなデータ」「九大の支援制度」「映像資料」の6つのテーマに分けて展示を行いました。展示は高校生にとって読みやすく、親しみやすいように、カラフルなデザインや写真を多く取り入れた紙面を作成し、テーブルスペースには高校生にも読みやすいジェンダー関係の書籍やパンフレット等を用意しました。

会場では、展示をじっくり読み込む姿や、保護者の方と一緒にデータを見ながら話し合っている様子、研究者の紹介記事を写真に収めている場面も見られました。また、映像資料の前では、多くの高校生が座ってしっかりと鑑賞している姿が印象的でした。

来場いただいた高校生からは、「映像やパネルで、さまざまな分野で活躍する先輩方の姿を見て、自分の将来を少し想像できた」「パネル展を通して、より広い視野を持つことの大切さを実感した」「女性の先生方や学生がたくさん活躍している様子や、男女比のデータがわかりやすく展示されていてよかった」「学内に保育施設があり、研究者や子育て中の方にとって協力的な環境が整っていることを初めて知った」「学部ごとの男女比のデータが印象的で、支援制度がとてもしっかりしていることに驚いた」「男女共同参画社会とはどのようなものであるべきかを考えさせられた点がよかった」など、たくさんの感想をいただきました。このパネル展が、本学の支援制度やロールモデルについて、高校生に理解を深めてもらう一助となったと考えています。

男女共同参画推進室 イベントカレンダー（2025年度）

2025年

- 4 月 7日　ダイバーシティ・スーパーグローバル教員育成研修（SENTAN-Q）事業最終報告シンポジウム
- 7 月17日　システム情報科学研究院FDにて講演「九州大学における両立支援制度の活用について」
- 8 月 2日　オープンキャンパスパネル展「その先に、なりたい私がいる―ロールモデルと支援制度で描く“私の未来”―」
- 8月4-8日　女子高校生対象の理工系インターンシップ「QURIES プログラム」開催
- 9 月18日　日本植物学会ダイバーシティ推進ランチョンセミナーにて講演「研究者のワーク・イン・ライフ ～九州大学の事例を参考に～」
- 9 月25日　九州・沖縄アイランド女性研究者支援シンポジウム in 久留米大学共催
- 9 月29日　九州大学馬出地区4部局合同男女共同参画FDにて講演「DEI環境の醸成と組織の健全な発展：国際調査結果から」
- 10月 1日　SENTAN-Q第7期研修生　キックオフミーティング
- 10月 2日　第1回 ランチタイム交流会「九州大学におけるライフイベント関連制度・支援の紹介」
- 10月23日　SENTAN-Q第5期研修生修了認定式
- 10月27日　第2回 ランチタイム交流会「更年期以降を健やかに生き生きと過ごすために」
- 10月29日　全国ダイバーシティネットワーク幹事会にて活動紹介とパネル討論
- 11月11日　九州大学若手女性研究者・女子大学院生優秀研究者賞（伊藤早苗賞）授賞式
- 11月21日　ワーク・ライフ・バランスセミナー「マインドフルネス研修 ～仕事と生活にゆとりを生み出す“気づき”の習慣～」
- 12月 1日　ダイバーシティ推進トップセミナー「ジェンダー平等の世界潮流と日本の大学の現在地」

2026年

- 1月17-18日　大学入学共通テスト一時保育
- 2 月10日　学生のためのジェンダー研究奨励プログラム報告会
- 2 月28日　Open Café 2025 ～九大OGに聞く！学生生活やキャリアについて
- 3 月16日　女性職員エンカレッジメントセミナー

8月 QURIES プログラム

10月 SENTAN-Q第5期研修生修了認定式

11月 伊藤早苗賞 授賞式

11月 ワーク・ライフ・バランスセミナー

イベント開催報告 1

ランチタイム交流会

男女共同参画推進室では、学内の教職員の方々が、性別を問わず気軽に参加できるランチタイムのオンライン交流会を開催しています。2025年10月2日（木）には、男女共同参画推進室専任教員・上瀧恵里子教授による「九州大学におけるライフイベント関連制度・支援の紹介」を実施し、子育て支援制度や研究支援制度など、最新の取り組みを紹介しました。続く10月27日（月）には、「更年期以降を健やかに生き生きと過ごすために」をテーマに、医学研究院の加藤聖子教授をお迎えしました。日常の過ごし方や周囲の環境の整え方など、更年期を前向きに乗り越えるためのヒントを共有いただきました。

イベント開催報告 2

第1回 学生のためのジェンダー研究奨励プログラム

九州大学では、ジェンダー研究に取り組む学生をサポートする制度を2010年度から実施しています。昨年度までは研究費を支援する「研究助成プログラム」としてきましたが、より研究に取り組みやすくなるよう、本年度から奨学金として支援する「ジェンダー研究奨励プログラム」としてリニューアルし、4月から募集を開始しました。本年度は7月に学部2名、修士4名、博士4名が採択され、研究に取り組んでいます。2月に研究成果報告会を開催する予定です。募集要領等については以下をご参照下さい。
https://danjyo.kyushu-u.ac.jp/upbringing/guidelines.php（学内限定）

（学内限定）

イベント開催報告 3

SENTAN-Q　キックオフ・ミーティング

2025年10月1日に「ダイバーシティ・スーパーグローバル教員育成研修（SENTAN-Q）」第7期研修生キックオフミーティングをオンラインで開催しました。本研修は、2019年度～2024年度は科学技術人材育成費補助事業として、2025年度から本学の自主事業として実施しています。数年以内に1段階昇任の見込まれる女性ならびに若手教員を対象に2年間の国内外での研修を実施し、修了認定がなされた教員には、総長より「認定書」が与えられ、修了から原則1年以内にテニュアトラック教員にはテニュア付与、テニュア教員には1段階の内部昇任が与えられます。詳しい情報はSENTAN-Q特設ホームページよりご確認ください。

ライフイベントに伴う研究継続支援

本学では、ライフイベントに伴う研究継続のため2つの支援を実施しています。「研究補助者雇用支援」は、出産・育児や介護などのライフイベントにより研究時間の確保が困難な研究者を対象に、当該研究者の指揮命令下で研究支援業務に従事する研究補助者を雇用するための経費を支援するものです。もう一つの「出産・育児復帰者支援」は、出産・育児による3か月以上の中断から研究の現場への復帰が滞りなく行われるよう研究費を支援します。令和6年度から両支援とも女性研究者に加え、男性研究者も申請可能となりました。

支援概要

● 研究補助者雇用支援

- 採択件数：各期（春期、秋期）につき5件程度（予算の都合により変動する場合あり）
- 支援上限額：1月あたり7万円を・最大12ヶ月（上限）（予算の都合により圧縮する場合あり）

https://airimaq.kyushu-u.ac.jp/university-relations-only/support-employment-of-ra/（学内限定）

● 出産・育児復帰者支援

- 採択件数：8件程度（予算の都合により変動する場合あり）
- 支援上限額：50万円（予算の都合により圧縮する場合あり）

https://airimaq.kyushu-u.ac.jp/university-relations-only/support-returning-from-maternity-and-parental-leave/（学内限定）

両支援とも半数を女性優先枠とする。申請書を審査の上、採択者を決定。

お問い合わせ

研究・産学官連携推進部　研究企画課研究企画係
E-mail：kissen@jimu.kyushu-u.ac.jp　Tel：092-802-2323

男女共同参画推進室 蔵書紹介

『ミライの源氏物語』

- 著者：山崎ナオコーラ
- ISBN：978-4-473-04548-5
- 発売日：2023年2月27日

皆さん、昨年の大河ドラマ「光る君へ」をご覧になりましたか？ 映像の美しさと物語の面白さに引き込まれた方もいらっしゃると思います。ドラマは現代向けに整理されており、違和感なく楽しめますが、源氏物語そのものにはロリコン的描写や性暴力、古今東西に見られるホモソーシャルやトロフィーワイフの価値観、性別や立場による微妙な権力関係など、ジェンダー的に考えさせられる要素が満載です。本書は、そんな源氏物語の複雑さを現代視点で読み解きつつ、自然に引き込まれる楽しさも味わえる一冊です。

ベビーシッター派遣事業割引券について

教職員の仕事と子育ての両立支援のため「ベビーシッター派遣事業割引券」を発行しています。 ※電子割引券のみの対応

＊利用対象＊
本学教職員（非常勤を含む利用者、配偶者共に就労）の就業中の利用　※例外：配偶者が入院で就労困難な場合など

＊対象サービス＊
家庭内での保育、保育施設から家庭への送迎

＊対象児童年齢＊
0歳～小学校3年生　※条件を満たせば小学校6年生まで利用可能

＊割引金額と利用上限＊
割引：2,200円/1枚
上限：対象児童1人につき2枚/日・1家庭24枚/月・280枚/年

※多胎児については異なりますので、下記HPをご覧下さい。

お問い合わせ　男女共同参画推進室
E-mail：sitter@danjyo.kyushu-u.ac.jp
Tel：092-802-2034
https://danjyo.kyushu-u.ac.jp/info/sitter.php

男女共同参画推進室 専任教職員紹介

男女共同参画推進室の専任教職員を個人的見解に基づき紹介いたします。

上瀧 恵里子　教授
九大歴40年（?）。室の中心的な存在として10年以上活躍。大河ドラマと朝ドラが好き。

河野 銀子　教授
令和5年10月着任。専門はジェンダー・教育社会学。NYマラソン経験者でキティラー。

横山 美貴　職域限定専門職員
イベント企画、広報物、翻訳担当。カモ、ツバメ、ツルなどの渡り鳥の観察が好き。

毛塚 基香　テクニカルスタッフ
1年前に東京から転居。オープンキャンパス、ホームページ等を担当。趣味は謎解き。

渡邉 扶美枝　事務補佐員
和歌山出身。東京での学生生活・勤務を経て福岡へ。庶務・経理を担当。カラオケ好き。

文責：横山

編集後記

最近の政局の変化で、ワークライフバランスが改めて注目されています。様々なライフイベントにより、働きたくても十分に働けない状況である人を組織内で支え合い、そのバトンをつないでいくことが理想です。男女共同参画推進室ではそのための交流やセミナーが開催されているので、活用していただければ幸いです。（総合理工学研究院　中川 剛志）

＼読者の声／
をお聞かせください。
アンケートにご協力をお願いいたします。

編　集

九州大学男女共同参画推進室　企画広報環境整備部門　企画・広報WG
伊藤 裕之（芸術工学研究院 教授）、長津 結一郎（芸術工学研究院 准教授）、麻生 真理子（薬学研究院 准教授）、中川 剛志（総合理工学研究院 准教授）、横山 美貴（男女共同参画推進室 職域限定専門職員）

［ロゴデザイン］ 藤 紀里子（芸術工学研究院 助教）

制作／株式会社ミドリ印刷